



神に生きる人びとの中で 神の美しさを見る

(詩編 27 編 17 節 大齋節第 2 主日の詩編)

2013 年

大齋節

2月13日(水)

く

3月30日(土)

日本聖公会

たいさいせつ
＜大齋節＞

大齋節は、人びとが洗礼を受ける準備を進めるか、受洗の際に誓約したキリストに従い、それを生きるという約束を強めるための特別な期節です。

今年の大齋節は、2月13日(水)の大齋始日から始まり3月30日(土)の復活日前日までの主日を除く40日間です。この特別な期間を過ごすとき、「克己(こっき)」が大きな位置を占めています。克己とは、自分自身の欲望や自己中心的な生き方を克服しようとすることを意味します。すなわち、「己(おのれ)に克(か)つ」ということです。このことを特に意識して過ごすのです。そして、それを支えてくれるのが「祈り」と「断食」です。

祈りは神に聴くことによって真理を識る、断食は断つことによって真理を悟る、ということをも意味するでしょう。断食について聖書に聴きたいと思います。「わたしの選ぶ断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、軛(くびき)の結び目をほどいて、虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。さらに、飢えた人にあなたのパンを与え、さまよう貧しい人を家に招きいれ、裸の人に会えば衣を着せかけ、同胞に助けを惜しまないこと。」(イザヤ58:6～7)

私たちは、ことにこの期節に、克己(祈り・断食・修練)の業を通して、「神に生きる人々の中で、神の美しさを仰ぎ見る」信仰の深まりを求めていきたいものです。

＜大齋克己献金＞

大齋克己献金を奉獻することは、日本聖公会の尊い習慣として続けられています。それは、この期間の信徒一人ひとりの克己の証として復活日(節)に献げられ、管区に集められて宣教の働きに用いられます。それは、国内宣教のため、海外宣教のため、そして国内伝道強化プロジェクトのためにと分けられます。

＜国内伝道強化プロジェクト＞

大齋克己献金の中から1,000万円をひとつの宣教の働きに献げ、これを用いることによってその働きがなお一層前進するためにと後押しするものです。2013年度は、次の二つの働きを支援することが決まりました。

①京都教区・ほっこり宣教プロジェクト

人が病に冒されたときに、特に地方居住者は都市居住者に比べて大きな不利益をこうむります。高度医療を受けようと思えば都会にいくしかなかく、入院中は何とかなっても通院段階になったときに家から遠くて通院できない、通院するためには高価な京都のホテルに泊まるしかない。通院療養および付き添い家族の宿泊支援施設として、京都聖ヨハネ教会境内地に建物を新築し、その必要を持つ多様な人びとにとって「ほっこり」できる場づくりを宣教としてとらえ、取り組んでいく働き。

②中部教区・可児ミッション伝道所の用地取得と建物建設

可児ミッションの活動が伝道所として認可され、さらにその働きが進展していく中で、賃貸している場所から自前の土地・建物を、との願いを持ち続けた結果、ふさわしい候補地が与えられた。

現状は、ほぼフィリピン人だけの集まりであるが、将来は、地域の様々な人々が集う教会として成長することが期待されている。そのためにも土地取得、建物建設は必要となってくる。と同時に、土地が取得され、それなりの広さを持つ建物が得られるなら、その働きの広がりも飛躍することだろう。執事と主事が常駐派遣され、日々の活動を支えている。

毎年繰り返される大齋節ですが、この期節を一人ひとりが有意義に過ごし、悪魔の誘いに打ち勝ち、喜びの復活日へと信仰の歩みを進めてまいりましょう。

2013年2月
日本聖公会管区事務所
総主事 司祭 相沢牧人